

中央本線の特急列車が走行中にドアが開いた事象の調査状況及び対策について

2026年3月28日、中央本線初狩駅付近において走行中の特急列車のドアが開いた事象について、多くのお客さまにご迷惑とご心配をおかけしたことを改めて深くお詫び申し上げます。

本事象は運輸安全委員会による調査が行われており、弊社としても調査に協力しております。一方、様々な技術的な評価により原因の推定および対策の妥当性について検証を行ってまいりましたので、その結果について報告いたします。

なお、運輸安全委員会による調査結果を踏まえ、必要により追加の対策を講じてまいります。

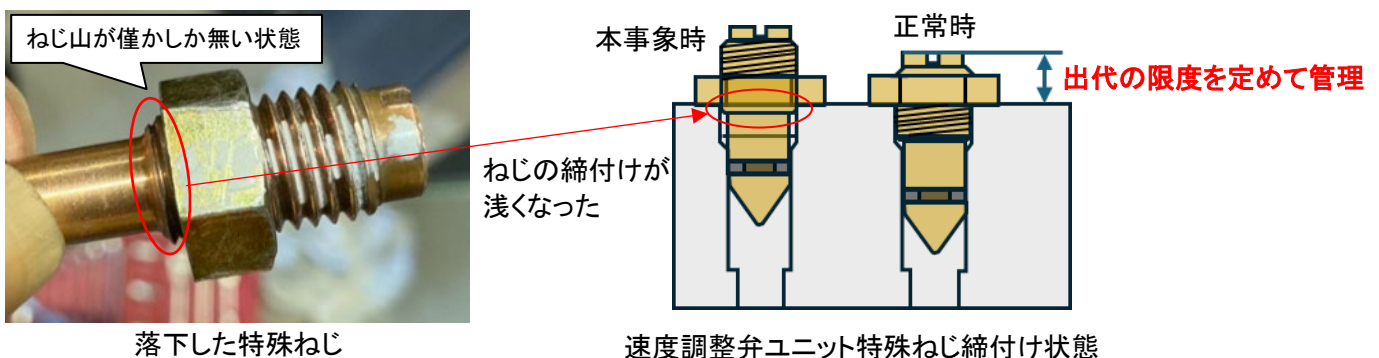
1. これまでの調査に基づく推定原因

事象発生直後の当該車両の点検において、戸閉装置に設置されているドアの開閉速度を調整するねじ（以下、特殊ねじ）が外れ、戸閉装置からエア漏れが発生し、ドアを閉扉する本来の力（圧力空気によるもの）が失われていた事を確認しています。このことから、弊社としては、走行中にこの特殊ねじが戸閉装置から外れたものと考え、調査を行って参りました。その後の調査により、過去の定期検査時、今回外れた特殊ねじを扱いドアの開閉速度の調整を行った形跡がありました。この際に特殊ねじの締付けが浅くなったことで、その後の列車走行振動等により特殊ねじが緩み脱落したものと推定しております。

2. 調査結果に基づく対策

当該のE353系車両を含め、空気式の戸閉装置を搭載している車両については全車両点検を終え、異常が無い事を確認しました。今後、再発防止対策として以下の項目について対応を実施して参ります。

- ① 空気式戸閉装置を搭載している車両は、特殊ねじが落下しない管理寸法を定め、調整した際に治具を用いて確認する。
- ② 空気式戸閉装置で調整作業を行った際は、作業員以外も特殊ねじが管理寸法内にある事を確認（ダブルチェック）し、定期検査の際には調整作業の有無に関わらず特殊ねじの締付状態の確認を行う。



多くのお客さまにご迷惑とご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。対策の徹底を図り、鉄道安全の更なる向上に努めてまいります。

2026年3月30日
東日本旅客鉄道株式会社
八 王 子 支 社

中央本線の列車が走行中にドアが開いた事象について

3月28日（土）、中央本線初狩駅付近において、走行中の列車のドアが開いた事象がありましたのでお知らせします。

お客さまに、ご心配とご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。
本事象について、これまでに判明した状況をご報告します。

- 1 発生日時 2026年3月28日（土） 14時00分頃
- 2 発生場所 中央本線 初狩駅付近
（住所：山梨県大月市初狩町下初狩3390番地）
- 3 当該電車 特急かいじ28号 甲府発 新宿行 上り 特急電車 E353系 9両編成
※当該電車に乗車されていたお客さまは約250名です。
- 4 概 況 3月28日（土）、当該列車の運転士は初狩駅通過時に、運転台のモニターにドア開扉の表示を認め非常ブレーキにて停止しました。現場を確認したところ、11号車のドアが1箇所開いていました。
本事象により、開いたドアから車外へ転落したお客さまはおりません。また現時点でお客さまの怪我はありません。
- 5 時 系 列 3月28日（土）
14：00頃 初狩駅通過の際に、運転台モニターにドア開扉の表示を認め、非常ブレーキにて停車
14：05頃 乗務員による当該ドアの確認を行い、ドアが1箇所開いているのを認めたため、乗務員による当該ドアの鎖錠を行った
14：31頃 安全確認及び運転再開準備を行い、運転再開
14：35頃 初狩～大月駅間走行中、再度運転台モニターに同箇所のドア開扉の表示を認め、非常ブレーキにて停車
14：45頃 乗務員による当該ドアの鎖錠確認を実施
※ドアが開いていなかったことを確認しております
14：55頃 乗務員による当該ドアの鎖錠確認が終了し、運転再開
14：58頃 大月駅から当該ドア付近に保安要員を添乗させ運転再開
※当該列車は約60分遅れで新宿駅到着
- 6 原 因 当該ドアに設置されている特殊ねじが外れたため、ドア上部のカバー内で漏気が発生し、閉め方向の力が弱まり、ドアが開いたと推定されます。運輸安全委員会による調査が行われており、特殊ねじが外れた原因を含め、現在詳細調査中です。

7 対 策

緊急対策として、中央本線で走行している同種の車両（E 3 5 3 系）のドアに設置されている特殊ネジ等が外れない状態である事を 2 0 2 6 年 3 月 3 0 日の運行開始までに全車点検を終え、異常が無い事を確認しております。